

令和元年度

大江町総合教育会議 会議録

期 日：令和元年 12 月 13 日

大江町教育委員会

- 1 招集年月日 令和元年11月12日
- 2 招集の場所 大江町中央公民館 多目的ルーム
- 3 開会年月日 令和元年12月13日 午後3時10分
- 4 出席委員
 

大江町長	渡邊兵吾
大江町教育委員会委教育長	犬飼藤男
大江町教育委員会委員	山家貴代
大江町教育委員会委員	鈴木正洋
大江町教育委員会委員	鴨田幸恵
- 5 会議に出席した者
 

大江町総務課課長	佐竹宗弘
大江町立左沢小学校校長	日塔宜邦
大江町立本郷東小学校校長	佐竹伸一
大江町立大江中学校校長	清野均
大江町立左沢小学校教頭	鈴木幹郎
大江町立本郷東小学校教頭	高砂晃
大江町立大江中学校教頭	渡邊基
大江町立左小・大中藤田の丘教頭	建部敦
大江町教育委員会教育文化課長	西田正広
大江町教育委員会学校教育主幹	白田克幸
大江町教育委員会学校教育主査	清野邦宏
- 6 協議事項
  - (1) 今後の教育振興に向けて
  - (2) 教育振興計画改定に向けて

◎開会

○西田教育文化課長

令和元年度大江町総合教育会議の開催を告げた。また、今回校長会、教頭会からも参加をいただいているが、教育振興に向けて各般のご意見をお聞きしたいことから、合同の会議としたことを告げた。会議の主旨を議事録としてまとめ、町ホームページにより公表していくことを告げた。

◎あいさつ及び講話

○渡邊町長

会議に出席いただいたことに謝辞を述べ、その後、今後の教育振興に向けて講話をおこなった。

◎情報・意見交換

○西田教育文化課長

次第3 意見交換をおこなうこととし、町長が座長となり会議を進めることを述べた。

○渡邊町長 今後の大江町の教育振興のために、それぞれの立場で必要と考えられることを述べてほしい。

○佐竹校長 マルチな能力、資質が大事だと思うのだが、現在の学校教育はいかに学力を上げるかに偏っている。地域にマルチな力を持つ大人が多くいるのだから、もっと学校教育に取り入れたいのだが、現在の流れはそうになっていない。大江町では社会教育が充実しているので他町よりはいいと感じているのだが、子どもたちにもっと地域の活力を取り入れた学習をさせたいと感じている。

○渡邊町長 ある方から、自分は東京に行って下宿するまでナイフでリンゴの皮も剥いたことがなかったという話を聞いた。下宿のおばさんからナイフを渡されても、どう使えばいいのか分からない。今、スーパー等ではカットフルーツ、カット野菜が売られている。マルチな能力というのはそういうところからスタートするのだと思う。

○日塔校長 大江町では「野山を駆け巡る教育を」と教育長さんが言っていた。実際に成績優秀の子を育てるよりも、あくまでも社会に出た時に役に立ち、責任をもって行動できる、また他者を支えることができる人間に育てることが大事。その中で学校教育はどうあるべきかと考えると、まず学校という小さな空間の中で幅広いスキルを身に付けてもらうような教育であるべき。そのうえで「生きる力」＝「基本的生活習慣」であることを基本に、個々人のスキルを高めさせなければならない。様々な選択肢のある授業を用意し、将来的に決断のできる人間にしなければならない。

○渡邊町長 自分のことですが、中学生の時に「ひとりで北海道に行け」と言われて、ズボンの内側にポケットを縫い付けてもらい、そこにお金を入れて行ったことがあった。そういう体験が原点となっている。

○清野校長 一隅を照らすという言葉がある。平安時代に天台宗を開いた最澄の「一隅を照らす者、これ、国の宝なり」という言葉。一隅とはみんなが気づいていないほんの片隅、一角のことを指す。最澄はまた「一隅から千里を照らす人間になれ」と説いた。そういうリーダーになれと部下に話した。

子どもは一度感動すると何にでもなりたがる。先日一流のダンサーを呼んで生徒の前で踊っていただいたが、一流のものに触れさせる大事さがよく分かった。すごいものに触れることは子どもたちを変える。これが続けば、大きな人間になれる。

吹奏楽部の東北大会出場で、多くの町民が喜んでくれて、輪がどんどん広がっていった。大江中学校の保護者は、学校でもキチンと話を聞く。町の土壤がしっかりしているから子どもたちものびのびと育つ。ただ今一番育てたい文化は、本を読むという文化。

○渡邊町長 ある人から「素晴らしい町だ」と言われた。「子どもたちがどこに行っても明るく挨拶してくれる」外部から来た人は、大江町の子どもたちを評価している。

○建部教頭 他の地区と比べて、時間がゆっくりしているような気がしている。自分も余裕

をもって教育活動に当たれていると思う。また、分校は大江町出身ではない子どもたちが学んでいるが、大江町はそれを受け入れてくれている。そういう土壌ができています。子ども同士の衝突も多いのだが、それを乗り越えた先にあるものを目指していけるようにしたい。

○渡邊町長 分校の子どもたちは明るく生活していると感じる。かつて光風園、今は朝日学園という、町のものではないものを受け入れる人間性が風土として備わっている。そういう文化があるので、子どもたちも非常に落ち着いているのではないだろうか。

○渡邊教頭 自立できる子どもたちを育てていくためには、自分たちは何をすべきかということを考える。清野校長も言っていたが、一流の方に来ていただき子どもたちに触れさせるのも大事だし、また地域の方が学校に来てくださり、町のことを様々な教えてくれることも大事。マルチな力をつけるためには様々な活動を生徒たちに実践させていく必要がある。

○渡邊町長 人口減少、少子高齢化、数千人の町がいっぱいある。全国の町村長が集まった時に話を聞いてみると、全国的に鳥獣被害がひどい。「獣地化」が進んでいる。役場職員も鉄砲の免許を取らなくてはならない時代。イノシシが町を闊歩する時代には、マルチな能力の中にそういう対応もできる能力が必要になってくるのではないかと。

○鈴木教頭 町との一体感をとても感じる。子どもたちも気持ちのいい挨拶をしてくれる。ただ、先生たちも含めて集団で行動する力や学年・学級づくりをしていく力が少し足りないと感じる。授業改善と抱き合わせで考えていく必要あり。また今の世の中、PTAの存在に対して風当たりが強いが、大江町はPTAが本当に力強い。保護者のリーダーが心強い。特に父親の姿が頼もしい。男の子はその父親の姿を見て逞しく育つのだと思う。

○渡邊町長 西田課長、元PTA会長としていかがですか？

○西田課長 現在総合計画を町全体で作っているが、皆さんの意見を聞くと「今ある幸せを守りたい」という声が多い。ただ20年後、30年後の社会はAIが今とは違う社会を構成しているかもしれない。そんな中においても、やはり子どもたちには社会を生き抜く力を身に付けてほしいと考え……先ほど清野校長から「一流のものを見せる」という話がありましたが、わたしも当時そのような考え方から子どもたちに「本物」を見せようと思い、PTA会長をしていた時代に、縄跳びの世界チャンピオンや紙飛行機の滞空時間世界記録を持つ方のお弟子さんと呼んできたりして、子どもたちに指導してもらった。そういう本物に触れることによって、子どもたちの目の輝きが違ってくる。それを大事にしていく土壌を町としてしっかりと持っていれば、将来的にどのような社会が到来しようと、子どもたちは未来を生き抜くことができるのではないかと思います、PTA活動を続けてきた。

○渡邊町長 子どもたちを育てるうえで、町と一体化して取り組んでいくことは大事。PTA会長のOBと歴代校長の集まりもあるようなので、そこも活用していくべ

きではないか。

- 高砂教頭 1市4町すべての学校を回ったが、大江町は特に人と人の距離が近いような気がする。子どもと子ども、親と親、親と先生、学校と教育委員会、すべていい距離感を持っている。また、大江町の教育に対する姿勢が素晴らしく、子どものことを第一に考え、去年は本郷東小学校のトイレをすべて新しくしてもらった。他にも指摘箇所があればすぐ対応してもらえる。そして、渡邊町長のおっしゃる共生教育が様々な場面で子どもたちに根付いてきていると感じる。将来的に地域で何かやってみたいと考える子どもも出てきている。小さい時から地域ぐるみで教育にあたってきた成果だと感じる。
- 渡邊町長 知り合いの方に「なんとや孫、勉強してったが？」と聞いたところ、「塾さ行って頑張てだみだいな。スポーツとの両立は難しいもね」と返事があった。ある議員からも学校で公営塾のようなものがないかと質問があった。
- 犬飼教育長 その議員さんの質問の趣旨は、収入や家庭環境の差で塾に行ける子と行けない子がいるのではないかと。その差を行政として解消すべきではないのかということだった。
- 渡邊町長 以前は学校でも補習授業などおこなっていたはずだが？
- 清野校長 以前は朝7時くらいからテストをおこなったり、夜は補習をしていたりしたが、それがやり過ぎであると問題視されるようになり、現在はおこなわれていない。今は自主学習会という形でやっている。
- 犬飼教育長 居住地区から民営の塾が遠い町村などでは、民間と提携して公営の塾のようなものをおこなっているところもある。
- 渡邊町長 北海道ではかつて、高校の先生が自宅で教えていた時代もあった。ただ国の通達が出て教員の兼業は禁止ということになり、なくなった。時代とともに手段も変わる。
- 鴨田委員 大江町に来てから、「なごなご」とした人との付き合いや、ゆっくりした時間の流れを感じている。そんな中で生きていくこと自体、我々の財産である。そうした中で生活して思うことは、ぷくらすカレッジなどでみんなが学習して自分を高めようとしているし、そこで得たことを、子どもも含めて地域ぐるみで伝えようとしている姿勢がうかがえる。これは子どもたちを育てるうえですごくいいと感じる。子どもたちの励みにもなるし、いろんな感性を育てていくこともできる。それがこれからの大江町を作っていくと思う。
- 渡邊町長 教育委員会活動の原点は、今の鴨田さんの意見のようなどころにある。先生ではない一般の人々が教育にかかわっていくことが大事なのだと感じる。これが教育委員会のベーシックな原則である。都会で暮らすことを否定するわけではないが、やっぱり「価値」として大江町に住むこと、田舎に住むことを選ぶ意味があるのではないかと考える。
- 鈴木委員 学校でも社会でも分からないことを教えてくれる人がいることが大事。子どもは「つまずき」から学ぶことがとても多い。ただ子ども一人ひとりのつまずきが

どこにあるかということを見極める大人が必要なのだが、これがなかなか難しいのではないかと思っている。そういう時に、先ほどから話題になっている公営の塾などで実現できれば素晴らしいことではないか。子どもたちに学ぶ喜びを知ってほしいし、親もそれを感じられる町になってほしい。ただ、子どもたちの学びを人任せにせず、子どもをしっかりと躡けていける賢い親になることも大事である。また先ほどマルチな能力についても言及されたが、これからはコンピュータを「使える」という時代から、コンピュータを使っていかに効率よく生きていけるかという力が求められると思う。学力だけでなく子どもたちの生きる力につなげるようにしていかなければならない。

○渡邊町長 「昭和は遠くなりけり」という言葉があるが、鈴木委員の言葉はまさに、時代背景を読み取り、子どもを育てていくことにつなげなければならぬということ。数年前のリーマンショックは、一流のコンピュータ技術者たちが組み立てた方程式が破綻したことが発端だが、どこにどのような方程式があるか理解し読み取ることができるのは、この地球上にたった5人しかいなかった。もちろん日本人はひとりもない。結局方程式が破壊され経済が崩れた。AIの進展は危険なファクターも多いが、将来の子どもたちがそういう「謎解き」をできるようにしていかなければならない。

○山家委員 今の社会はいろんなものが膨れ上がり、そもそも「子育てって何か」「学校って何か」というような原点が見えにくくなっているような気がする。学校に求められるものが急激に多くなり、先生方が考えたり話し合ったりする間もなく時代が進んでいるような気がする。教員全員で「自分たちはこういう子どもを育てるんだ」というような合意形成ができる環境が必要である。どんな時代になっても、子どもたちが「世の中そんな捨てたもんじゃない」「大人って格好いい」と思えるような教育を目指していかなければならない。今、先生方は忙しくて時間がないし余裕がない。だけど、校長先生方のリーダーシップを発揮していただき、全教員が「目指すもの」を示していく必要があると感じる。また子どもたちにあまり手を掛け過ぎず、子どもたちの間で起こったことは子どもたち同士で話し合わせ、克服させていく手法を用いることが、子どもたちの自立、生きる力に繋がる。

○佐竹校長 町への要望なのですが、子どもたちにもっと読書に親んでもらう環境を整えるために、読書の支援員のような方をお願いしたいと考えている。実際に図書室に行きたくなる、図書室で本を手に取りたくなる「仕掛け」をアシストしてくれる方を何とか雇っていただきたい。

○渡邊町長 町の作文コンクールのような形で、子どもたちが読書したくなるような仕掛けはできないだろうか、以前から考えてはいた。文字離れ、活字離れ、本離れが叫ばれているので、さまざまな方面から打開策を考えていきたい。図書館に人的支援が必要だとすれば、それも考えていく必要がある。

○西田課長 先日も校長先生方と、社会教育の山家係長とで、学校図書と町の図書館の活用を模索するため、東根や大石田の図書館に研修に行ってきた。その中で、各学校

に専属の図書館司書を配置するのではなく、町の司書が各学校を回って子どもたちの読書活動をサポートできるような形を学んできたところである。また、コンピュータで町と各学校の図書を結び付けて、子どもたちの利用をもっと便利にできないかなどということも模索する必要がある。

○渡邊町長 目的を確認し、人的配置が必要であるとなれば、教育委員会、役場とともに考えていかなければならない。財政が豊かとはいえないが、今後の課題である。若い人たちの雇用にも結び付けていかなければならない問題である。

みなさんの意見を受けながら、町の教育行政にあたっていく。

◎閉会

○西田教育文化課長 総合教育会議を終了することを告げた。

閉会 午後5時20分